

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201876		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ村松		
所在地	静岡県静岡市清水区村松原一丁目7-16		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2274201876-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;UjyosyoCd=2274201876-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

明るく・笑いの絶えない・100歳超えられるような施設を目指しています。  
1人1人が、いつまでも自分のことは自分でやりたいという意思があるため  
自立支援ができるよう介助させていただいています。  
信頼関係築きながら、利用者様の尊厳・プライバシー守りながら、楽しく暮らしていけるよう  
支援させて頂いています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

過去には大きな声が隣近所に時折響くことから不信感をもたれていたことは否めず、新しい体制になったことで菓子折り持参で1軒、1軒お詫びかたがご挨拶に向かい再スタートを切っています。事業所の真摯な姿勢を認めてくださった村松原地区の皆さんからは今、心地よいエールを得るまでになり、ある時は「立木で標識がみえなくなってますよ」と撤去の打診が警察から入って伐採をしていたところ、黙って下で落ちた枝の片づけをくださったこともあります。併設のデイサービスの利用者の紹介も近隣から入り、信頼回復の予兆が日に日に感じられる今日この頃です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく」をモットーに利用者様の尊厳を守り支援させて頂いています。	出勤時に目に入る位置に理念を掲示しています。唱和はないものの、利用者を主役とすることが円滑にできない職員もいることから、スタッフ会議で毎回管理者から繰り返し伝えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの状況の中で外出できていませんが近隣の中学とアポを取りしています。(合唱祭など)	中学校の職業体験、合唱祭や体育祭の他新しい企画も考案していましたが、コロナ禍で中止となっています。それでも、体育祭は教室から見せてもらえ、縁は変わらず続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でやっている模擬訓練等に参加させていただき支援方法や関わり方などお話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為、中止させていただいていましたが、8月より議事録を作成し自治会長様より回覧していただいたり、ご家族の方にも配布させていただいています。	2月以降は開催案内後中止、8月より自治会長へ議事録を届けることを始めています。自治会長が毎月顔を出してくれ「困っていることはないか」と気にかけてくださるおかげで、情報交換は叶っています。	内部の仕組みから運営推進会議に係る活動報告は1ヶ月毎にまとめているため、それらを2ヶ月毎にまとめてメンバーに届け、FAXやはがきで意見を得ることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	副会長様と連絡を取らせていただき、改善要望などアポ取らせていただき情報共有させて頂いています。	地域ぐるみでの徘徊訓練には職員を3名供出しています。また、自治会と地域包括支援センターの連携にも支えられ、「道路にカーブミラーをつけたい」といった要望が行政に速やかに上がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠ですが不審電話等があり、警察の指導のもと施錠しています。スタッフ会議や管理者会議にて話し合いの場を設けています。	夜間の不審者電話が収まらず、警察の助言を受け、防犯カメラの設置とともに24時間施錠を敢行しています。また夜間は管理者が直接電話に出ることができるよう、現在法人に稟議をあげて対策に臨んでいます。	施錠については定期的に協議をおこない、「当たり前」とならないように意識を保つことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行ったり、スタッフ会議にて身体拘束適正化委員会を行い虐待が起きないように指導しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていないため今後機会を設け活用できるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時に十分な説明ができず、利用者様ご家族と円満退去ができないことがありました。不安・疑問点に関しては時間を作り対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は今の所、ありませんが今後、意見・要望が上がった際は運営推進委員会にて反映させていただきます。	毎月発信の「今月の様子」には、家族の「ご要望欄」があり、双方向のコミュニケーションが図られています。手作りマスクのほか「冬を乗り切れるように」と大量のカイロが届く等、良好な関係が視えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の時などに意見・要望を出し合い、全スタッフにて話し合いを行い改善策など反映させています。	スタッフ会議で重ねてあるべき姿を管理者が話して聞かせ、「プライベートを職場に持ち込み笑顔がでない日は退勤してよい」とまでする熱意を大半の職員は買ってくれ、徐々に方向性が定まりつつあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフの良さを見れていない所もあります。今後もっと働きやすい環境作れるように努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修がある時にはスタッフにも参加していただき教わった内容をスタッフ会議にて話をしていただき情報共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流 ジョイグループ内の他の施設へ行かせていただき他施設の良いところをマネさせていただき向上するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の希望に沿えるよう利用者様の声に耳を傾け信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などご家族様とお話する機会や何かあればすぐに連絡取れるような関係になれるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ていないこと多くありますが、入居など色々なアドバイスさせていただき安全・安楽に過ごせるよう対応しています。必要に応じて福祉用具の提案させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できていないことが多いです。介助するのではなくお世話をしているという認識のほうが強く知識も未熟でまだ勉強することが多いです。利用者様にできることはやっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間との絆は良好だと思います。もっと安心して任せていただけるよう努力します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所からは離れています。コロナが落ち着き次第、利用者様の希望を聞き行動したいと思います。知人の方が面会に来てくださることはありません。	窓越しの面会がマスク・検温・消毒を以て実現しており、電話のやりとりも増やしています。河岸で働く家族が「皆で食べて」と大間のマグロが堪能できた日もあり、内外の関係づくりが充実しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢が近いからか利用者様同士が居室で談話されたり居室内でTVを観られたりとうまい良い関係であると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した利用者様と関係が途絶えています。今後は相談してもらえるよう努めます。相談内容によっては支援できるように努めます。 2名のご家族様は施設に足を運んでくださいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様から情報収集し本人の意向に沿えるよう努めています。	職員が管理するものの喫煙も可能で、毎日餃子をつまみに晩酌する人もいましたが、忘れていたことがあった為、家族の意向も踏まえて徐々に減らして現在は吞んでいません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方は把握しています。入居時に面談を行ない過去のサービス利用を確認させていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態などは全スタッフが気をつけ早期発見できるよう現状の状態を常に情報共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだ未熟な所にあります。その時の体調に合わせたケアを行いご家族と連絡を取るようになっています。モニタリングが不十分であるため最後まで行うよう努めます。	日常の現場記録を丁寧におこなうことで、職員の観察力を高めています。また併設のデイサービスを実費利用する人もいて、プラスαの取組みとして介護計画書にも位置付けています。	デイサービスという社会資源を導入くださっていますが、今後も担当者欄は介護職員以外の人が増えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入は徹底しています。毎日の申し送りの中で情報共有を行い、その時の体調に合わせて支援させて頂いています。介護計画の見直しが不十分です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化ができていないため、もっと多くのサービスを調べ利用できるよう勉強します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用ができていないため地域資源について学びます。 安全で豊かな生活ができるよう努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診5名、受診が4名います。 往診の方は診療方法に変更がある場合はドクターよりご家族に連絡していただき適切な治療を行っています。	4名が家族の通院介助で、5名は協力医の訪問診療を受けています。家族とはお便りと電話を通じて本人の体調面の情報を密に共有しており、家族を介して聞き取った医療情報は個人ファイルに残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	DSのNSへ何かあれば、すぐ報告・相談し、すぐ診てもらえるようにしています。その後の様子も報告するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンスやその時の様子を相談員さんと連絡をとり最短で退院ができるよう施設側でも受入の準備をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とこまめに連絡を取り往診のドクターとも連絡を取るようし利用者様の希望、ご家族様の希望通りの支援ができるようしスタッフ間でも情報共有しています。	本件については「緊急時の対応及び重度化・看取りに関する方針」を以て契約時に家族と合意するとともに、都度確認をとっています。98歳となる利用者が「此処で亡くなりたいたい…」と零したことから、家族と相談して通院から訪問診療へと切り替えた例もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成をし、スタッフ会議にて勉強会を行ったり、勉強会がある時には参加を促しています。 施設長による24時間オンコール対応にて対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の中で消防隊の方に来ていただき指導を受けています。地域の方との協力体制は不十分であるため今後お願いをしていくようにします	発電機はないもののランタンは揃っており、今後も備蓄充足に努める方針です。4月に日中、10月に夜間で設定し、1回は消防署の許可を得て法人内の事業所と合同でおこなっています。	新採時のオリエンテーションでは、避難経路と通報装置の確認をしておく、なお良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できているスタッフと、できていないスタッフに差があります。全スタッフができるようにするよう再度指導していきます。	「男性の後はイヤでは…」と案じ、入浴は女性が先と決めています。また、法人が敷くランクアップ試験では現在「接遇」の真っ最中で、本人に同意を求めてから居室に入るといった基本ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定していただけるような言葉かけができていません。言葉かけから徹底していくよう指導していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合が優先されています。利用者様の希望に沿ったペースで支援し1日を過ごせるよう努力します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が自ら身だしなみ行ってくれます。何かあれば直したり声掛けさせていただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は全員で食べるようにし片付けは役割分担があるため片付け手伝っていただいています。食事の準備も行っていただいています。	昼は外部のお弁当で、朝夕は食材の買い出しと調理を職員が担当しています。調理師免許をもつ新人職員が菜園で豆苗などを植えはじめ、諸所工夫しており、「コース料理の日」も新たにスタートしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量・水分量を記録し、少ない方には分食にて対応しています。1日1000ccは水分とっていただくよう声掛けしています。毎日野菜摂取していただくよう提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、介助の必要な方には介助にて口腔ケア促しています。最初は利用者様に行ってもらおうよう声掛けしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用をなくし介助の必要な方は時間を決め誘導するようにしています。介助が必要な方も尿意はあるため本人の訴えがある時に誘導するようにしています。	記録は把握しやすいように、黒丸や赤丸で便か否かを記し、またパットは△、軟便はナというように記号も駆使して排泄チェック表をつけ、「できるだけトイレ」を励行して自立につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のある方には牛乳を提供させていただいたり体操時に腹部のマッサージをしていたり少しだけでも快便になるよう支援させて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	プライベートの時間ちし入浴するかどうかは利用者様に決めていただいています。入浴時間も利用者様のペースで入浴していただき、のぼせないよう見守りしながら楽しんでもらっています。	湯は温度をあげながらのかけ流しで、入れ替えてはみませんが、浴剤は毎回入れ「色がきれいだね」「香riいい」と飲んでもらっています。爪白癬や水虫のほか、持病を持つ人の介助に留意を呼び掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のペースで休んでいただいています。眠れない方はリビングにて落ち着くまでスタッフと会話したりTV観たりし安眠できるようにしています。マッサージ機を使用する方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診内容は把握しています。薬の内容はファイルがあるため、いつ聞かれても答えられるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント重視し、その時の季節に応じた飾りつけ、イベントを行うよう計画しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出中止しています。コロナの前は、個別で花を見に行ったり楽しんでいただきました。ご家族の方と外出される方はいます。	初詣や花見を恒例の外出行事とし、毎月1回は外食を愉しんでいましたが、現在は散歩とテイクアウトやデリバリーのほか、レクリエーションや体操で身体を動かすことでなんとかリフレッシュにつなげています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設側ですが何か必要なものがあれば報告してくれますので購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由に使用できるようにしています。手紙を書かれる方もいます。ご家族から手紙が届く方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が、くつろげる空間作り、飾りつけなども利用者様と行うようにしています。	朝昼晩と換気し、次亜塩素酸水でこまめにアルコール消毒をおこなっています。リビングではハロウィンを片付け、早々とクリスマスの飾り付けが始まり、職員が買ってきたモールを利用者が飾り付けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を変えたり、席替えをしたりして色んな方とお話ができるようにしています。所定の位置に、こだわらず利用者様同士でお話されるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や今まで使用していた家具等を持ってきて頂いたりして、利用者様が過ごしやすい環境になるようにしています。	場所が変わることによって認知症が進行してしまうことを気遣い、今まで使っていた筆筒や写真の持ち込みを勧めています。就寝以外の時間はリビングで過ごしていますが、午睡が習慣の人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札などを使用したりし自立できる空間になるようにしています。		